

金融業界のIT投資意欲は旺盛 エンドユーザー取引拡大で高収益維持

ニーズウェル 船津浩三社長に聞く



上場1年銘柄に注目

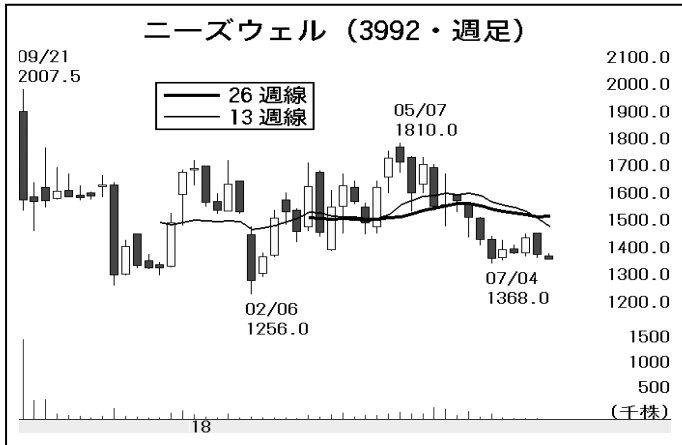
金融業界向け業務システム開発を主力とするニーズウェル（3992・2部）。9月20日に新規上場から1年を迎える。これまでの歩みを振り返るとともに今後の展望について船津浩三代表取締役社長に聞いた。

上場1年を振り返って。ドユーザー売上構成比の高さによる収益性の高さが特徴。2Qの売上高営業利益率は前9月期末の8・7%から10・3%へと向上した。金融業界では人手不足や働き方改革を背景にIT投資意欲が高まっており、受注環境は非常に良い。RPA（事務作業の自動化）需要の取り込みも順調に進んでいる。

「上場による認知度・信用力の向上で、新規顧客開拓が以前に比べてスムーズに進むようになった。採用面では今年に入り徐々に効果が出てきていると感じる」

「9月期第2四半期（2Q、昨年10月～今年3月）は売上高が計画未達となる

も、営業利益は計画を10%強上回る2億5500万円を着地した。当社は、金融系に特化したエン



拡大に注力する」

「安定した収益成長が期待できる③は、順調な立ち上がりを見せている。将来的には全体的な売上げの10%（今2Qは約2%）を目標にしたい。現在はRPA製品の『Win Actor』が（他社ソリューション）が好調。今年2月から本格展開を始め、これまでに7社の受注を獲得している。代表例に挙げている日清食品HD向けは既に納入を終え、今後はグループ会社にも順次展開していく予定。業績への寄与は来期以降を見込む」

「M&Aについては現時点で確定している案件はない

「成長戦略に掲げる①事業基盤の確立②エンドユーザー取引の拡大③ソリューション・ビジネス立ち上げに力を入れている。①は、特に生命保険や損害保険、クレジットカード会社向けが伸びている。特に当社が強みとする金融系業務システム開発は売上高の半分を占めており、引き続き新規・既存顧客との取引

RPA立ち上がりも順調

企業名	ニーズウェル
事業概要	金融を中心とした業務系ソフトウェアの開発・保守・運用、ネットやサーバーの構築、ソリューションの提供など
上場日	2017/9/20
初値	3850円（1対2株式分割前）